

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100347
法人名	有限会社 くまた
事業所名	グループホーム くまた
所在地	愛媛県 松山市 土手内 52-1
自己評価作成日	平成21年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員が笑顔で挨拶を実践している
月一回の他施設合同の介護教室(勉強会)に全員参加し、知識の向上をはかっている
地域行事への参加(祭り・運動会等)や夕涼み会の開催をすることによって地域との交流をはかっている
ゴミステーションの清掃等近隣地域に貢献している。
職員同士の親睦を深め、食事会等も積極的に実施し離職者も少ない

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 利用者の誕生日にはご家族を招き、ご本人のご希望のメニューと職員手作りのパースディケーキを準備し、花束をプレゼントされて、皆で食事しながらお祝いされている。事業所では、ご家族とご本人がともに過ごす時間を大切にされており、利用者の一時帰宅をご家族に呼びかけておられ、毎月帰宅されたり、時々帰宅される方がおられる。
- 事業所独自の「24時間個別チェックリスト」の書式を用いて、ご本人の言葉や生活の状態を記入し、利用者個々の思いや意向の把握に努めておられる。「家に帰りたい」とよく言われる方が近所に外出された際に、「お菓子を買いたい」と言われた言葉から「お菓子を買って食べたいから家に帰りたい」とのご本人の思いに気付かれた例がある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム くまた

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 土居 昭美

評価完了日

平成21年10月30日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員は地域との関係をつなげ、その人らしく暮らせるような理念を共有し、日々ケアに取り入れている。	
			(外部評価) 事業所の理念「真心」と毛筆で力強く書かれ、玄関に掲げられていた。管理者は、職員会や地域の方達が集まる場所に出られた際に、理念についてお話しされており、職員は、代表者や管理者の理念に込めた思いをよく理解して日々取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の会合（区長会、サポート大町等）や地域のイベント（大祭、市民運動会等）に積極的に参加し、近隣住民と十分話し合う機会をもっている。	
			(外部評価) 代表者は、地元出身で、地域の会合や行事に積極的に参加されている。年に数回、幼稚園児が訪問してくれて、お茶を点ててくれたり、ともにいも掘りして触れ合ったり、お守りのプレゼントをもらったこともある。利用者の中には感激して涙される方もあった。小学生の職場見学や中学生の職場体験の受け入れや高校生の青年赤十字の部活動で生徒の訪問が月に一度あり、利用者はゲームや歌等、交流をされている。音楽療法のボランティアの訪問時にはギターを聞かせてもらったりゲームや人形劇、楽しいトークもあり、笑いの絶えない楽しい時間となっている。事業所の庭で恒例の夕涼み会を開催した際には、ボランティアで地域や近所の方々、高校生が準備や手助けをしてくださり、利用者、ご家族を含め、150名程の盛大なイベントとなっている。他施設の方も参加してくださり交流された。代表者や管理者は「普段からなんでも相談していただきたい」との思いから今後、事業所を介護相談の窓口にしたいと考えておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域のサロンに出かけていき、認知症の勉強会を開催し、ホームでの日々の生活をプロジェクターを用いて紹介したり認知症に対する理解や支援の方法を説明している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて自己評価、外部評価の結果やイベ ントの結果等を報告。区長さんや民生委員さんと話し合 い、問題点について意見交換を図り、サービス向上に 活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2カ月ごとに開催されている。会議に は、ご家族や職員、利用者も交代で参加されており、 勉強会の報告や年間行事計画についての話し合い、新 型インフルエンザの対策マニュアルの検討もなされ た。運営推進会議で避難訓練を実施した際には、消防 署の方に、2階ユニットの利用者を階段で避難させる 方法を教えていただいた。又、会議で暖簾の撤去につ いて話したところ、ご家族から情報を教えていただ き、暖簾の防災加工をされた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月一回 北条調整委員会が開催される。 勉強会では事業所ごとに議題を決めて持ち回りで発表 する。包括支援センターとも密に連絡をとっている。	
			(外部評価) 北条調整委員会は、事業所ごと順番に担当が回って くるようになっており、今回は、事業所での「看取り支 援」の事例発表を計画されていた。事業所には、認知 症キャラバンメイト講習を受講した職員が3名おり、 地域のサロンで認知症サポーター養成講座を開催され た。参加者から「少し認知症の事がわかった」と、感 想をいただいたり、その際に介護相談を受けたりされ た。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の研修会に参加し、職員会で拘束についての 職員の共通認識をはかり、日々積極的に取り組んでい る。	
			(外部評価) 日中は玄関に鍵をかけていない。気ままに出かける方 には、職員がそっと付き添い、途中で声を掛けて、一 緒にホームに戻って来られるように支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者と職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所で虐待がみすごされることがないように注意を払い、防止につとめている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は成年後見制度の研修に参加し、職員会等で報告している。 必要と思われるご家族への助言を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に家族、利用者を交えて説明している。 医療連携体制等も同意を得るようにしている。 疑問点等随時詳しく説明し、了解を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃から自由に話せるような雰囲気作りを心がけ、家族の意見、要望をミーティングで話し合い反映させている。 また、運営推進会に参加していただき意見交換をはかっている。 (外部評価) 季節ごとに発行するホーム便り「まごころ」は、お誕生会や外出、行事、訪問者との交流の様子を写真を多く採り入れて作成されており、ご家族に送付されている。毎日、事業所に立ち寄ってくださるご家族や食事介助に来られるご家族、行事時には、ボランティアとして協力下さるご家族等、ご家族が事業所にかかわる機会が多くある。年一回の家族会時には、前もってアンケートで意見・要望をお聞きして、話し合われている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			日頃からコミュニケーションをとり、意見を言いやすい雰囲気である。 必要に応じ、全体、個別に意見を聞き対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(外部評価)	
			毎月のユニット会で職員の意見を聞かれたり、管理者は、日頃から、取り組みについて職員に「どう思う？」と問いかけて意見を引き出せるよう努力されている。職員は「代表者や管理者の人柄が良く、職員同士の人間関係も良いので、連携がスムーズに取れる」と話しておられた。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			段階に応じ全職員が受講できるよう積極的に推進している。 職員会で研修報告をしていただき、全職員で情報を共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			交流のある近くの特養で月一回の勉強会を行っている。 他のグループホームとの相互研修にも参加。ケアの向上に努めている。 市の連絡会に参加し情報交換を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前の面談にて生活状態を把握し、本人の日々の関わりの中で生活習慣や要望を聞き出し不安の軽減に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安や要望を理解し受け止め、どのような対応ができるかよく話し合うよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスにつなげていけるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いに寄り添い、根本にある苦しみや不安、喜びなどを知ることにより利用者と共に支えあえる関係を築きながら笑顔あふれる生活が送れるよう話し合っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いに寄り添いながら、本人の日々の暮らしぶりの情報共有に努め、本人を共に支えていけるよう話し合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と共に外出する機会をつくっている。 家族や知人が自由に来訪しており、本人が大切にしてきた人達との関係が継続できるよう支援に努めている。 (外部評価) 利用者の誕生日にはご家族を招き、ご本人のご希望のメニューと職員手作りのバースディケーキを準備し、花束をプレゼントされて、皆で食事しながらお祝いされている。事業所では、ご家族とご本人がともに過ごす時間を大切にされており、利用者の一時帰宅をご家族に呼びかけておられ、毎月帰宅されたり、時々帰宅される方がおられる。職員は、利用者の友人・知人が訪ねて来られた際には、お茶をお出しして、ゆっくり過ごせるように雰囲気作りをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居年数が長く、利用者同士の自然なつながりが築かれている。 職員は利用者同士の関係を把握し、共に楽しい時間を過ごすことができるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してからの継続的な関わりはほとんどないが利用中に培った関係性を大切にしながら必要とする利用者や家族には継続的なフォローができる体制はできている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者ひとりひとりとのコミュニケーションを大切にし、日々のかかわりの中で表情や言葉から思いや意思を測ったり確認するよう努めている。	
			(外部評価) 事業所独自の「24時間個別チェックリスト」の書式を用いて、ご本人の言葉や生活の状態を記入し、利用者個々の思いや意向の把握に努めておられる。「家に帰りたい」とよく言われる方が近所に外出された際に、「お菓子を買いたい」と言われた言葉から「お菓子を買って食べたいから家に帰りたい」とのご本人の思いに気付かれた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人自身の言動や家族や知人の面会時などに少しずつ聞き取り把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを把握し心身の変化に気づき、状況に応じた関わりが持てるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ユニット会にて意見交換やモニタリングを行っている。	
			(外部評価)	
			事業所独自の介護計画書の書式には、利用者やご家族の希望・意向の記入欄を設けておられ、ご家族からの大まかな希望に沿って職員で話し合い、より具体的な介護計画を作成されている。毎月モニタリングを行い、3か月毎に計画の見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別のチェック表を作成し、心身の状況や暮らしの様子を記録し、日々のケアや介護計画に活かしている。申し送りを行い情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			家族や本人の要望に応じて柔軟に対応している。利用者の心身の状態変化に応じ医療機関への受診や入院回避、早期退院の支援に努める。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			運営推進会にて地域包括支援センターや民生委員、地域の方と話をする機会を設けている。ボランティアの方にも積極的に働きかけ、交流している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。 受診、往診は本人や家族の希望に応じている。 必要があれば受診結果を連絡、情報を共有し、理解を 得てから適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医の受診を支援されている。 受診は事業所の看護師資格を有する職員が同行し、日 頃の様子を詳しく伝える等、信頼関係作りに努めてお られる。協力病院は夜間も対応してくれるようになって いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を職員として配置し、常に相談できる体制にあ り、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行え るようにしている。 不在時は介護記録をもとに医療機関との連携をとって いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には本人情報を提供し、頻繁に御見舞いに行 き、安心して治療できるよう心がけている。 また、家族とも連携を密にし、速やかな退院支援に結 び付けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの研修に基づき、本人や家族の意向を踏まえ、 家族・医師・看護師・介護職員が連携をはかり、看取 りに取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では、入居時に希望があれば看取り支援を行える事 を説明されて、毎年アンケートで看取りの意向を確認され、利 用者の状態に応じて、医師やご家族と今後の事について話し 合うようになっている。「愛する人との別れの準備」と題し た他施設主催の看取りの勉強会に全職員で参加し学ばれた。 3月には、事業所で初めて看取りの支援をされており、医師 やご家族と連携を図り、取り組まれた。亡くなられた際は、 利用者の方々も一緒にお見送りされ、葬儀にも出席された。 ご家族から「こちらのホームで看てもらってよかった」と労 いのお言葉をいただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			救急救命、応急手当等の勉強会に参加。 マニュアルを作成し、職員全員が素早い対応ができるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			防災士の資格取得 消防、分団員、区民らも参加で消防訓練を行う。 地域の町内会の協力も得ている。	
			(外部評価)	
			運営推進会議時、消防署の指導で防災訓練を実施された。消防署の方から消火器の使用方を教えていただいたり、2階ユニットの利用者の避難の所要時間を計られた。災害に備えて、水や食料の備蓄もしておられる。近所に地域消防団員の方がおられ、いざという時はすぐに駆けつけてくれるようになっている。	管理者は、今度の避難訓練では、夜間を想定して実施したいと考えておられた。今後も、利用者、職員のさらなる安心・安全に向けて、地震や海が近いために津波等、いろいろな災害を想定した訓練を重ねていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			ユニット会時に個々のかかわり方を検討し、日々のかかわりの中でも利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に努めている。	
			(外部評価)	
			職員は「利用者個々の個性を大切に」してかわることに努めておられる。職員と利用者の信頼関係の上で「○○ばあちゃん」「先生」等、利用者個々が慣れ親しんだ呼ばれ方で呼んでいる方もある。職員が利用者の居室に入室する際には、ドアをノックしたり、声掛けをされていた。利用者は「ここに来て2年になりますが、安心しています」と話されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日常生活の中で一人ひとりの力に応じ利用者自身が決定できるよう関わりを工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの生活リズムを大切にし、可能な限り個別支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 基本的には本人の意思に任せているが決定困難な場合には職員が共にかんがえている。 行事の際等、女性には職員が化粧を施すこともある。 理容は月一回ボランティアの方が来るのを楽しみにしている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえから片付けまで利用者と共に行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう心がけている。 BGMをかけ、雰囲気作りに努めている。 椅子等を工夫して食環境整備に努めている。 (外部評価) 昼食前には、居間のソファに腰掛けて全利用者と職員が手足を動かしたり、口腔体操をしておられた。管理者は、事業所の庭の畑で採れたなすびの料理法を利用者と相談され、天ぷらにすることに決めておられる様子がうかがえた。利用者の食事時の姿勢にも配慮されており、利用者個々の身体状態に合わせ、クッションや足元に台を置かれたり、不要になったチャイルドシートを活用して姿勢を保つ工夫をされていた。食器洗いは職員が洗った食器等を食卓テーブルで利用者が拭いておられた。食事時には、男性用、女性用、職員用で配色の違うご家族お手製のランチョマットを使っておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの体調と摂取量を把握し、食事の形状・量・内容・時間・場所など個別支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの研修を受講。 その必要性を認識し、本人の力に応じた口腔ケアに取り組んでいる。 食前の口腔体操やお茶ゼリー等予防にも努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、時間や習慣を把握。 トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	
			(外部評価) 職員は、利用者の介護計画の目標に「トイレでの排泄動作の自立」を掲げて支援をされている例がみられた。トイレの表示や職員の誘導時等には「トイレ」「便所」等、利用者個々が分かるよう配慮されている。職員は、食事前に利用者に「手を洗いに行きましょう」と声掛けされて、トイレの近くで「ついでにトイレに行っておきますか」とさりげなく誘導されていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) お茶ゼリーなど食材の工夫や健康体操、散歩など運動によって自然排便ができるよう心がけている。 排便の困難な時は処方された下剤（内服薬・座薬）にて調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には一日おきであるが本人の体調・要望にて柔軟に対応している。 入浴を拒む方には声かけや対応を工夫している。	
			(外部評価) 一日おきに入浴するようになっているが、希望があれば毎日入ることができるようになっている。ご自分の好みのシャンプーを使用されている方も複数おられた。入浴剤を入れたり、みかんを浮かべて入ることもある。浴槽は、三方向から介助できる造りになっており、車イスの方はリフト機械を使用して、安楽に浴槽で温まれるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促すことにより生活リズムを整えるよう努めている。 一人ひとりの生活習慣を理解し、環境作りに努めている。 寝付けないときには添い寝やおしゃべり等配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを使用している。 服薬時には本人に手渡し、確認、必要に応じ介助している。 症状の変化を詳細に記録し、医療機関とも連携をとるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮して貰えるよう声かけし、感謝の言葉を伝えるようにしている。 買い物やドライブ、催し事、年中行事など気晴らしや楽しみ事を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望（買い物など）に添って外出できるよう支援している。 季節を感じられるよう折々の催しや行事に参加、ボランティアの方の協力を得て日帰りの外出などを楽しまれたりしている。 (外部評価) 時には、庭にテーブルを出して食事をされたり、風船バレーやゲームを楽しまれている。厄除け寺参りや季節のお花見、盆栽を見に出かけることもある。又、職員の実家までドライブして、セイロで蒸した赤飯をごちそうになるのも恒例の行事になっており、利用者は「どこでもは食べられない、とびきりの贅沢です」と喜ばれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望者には少額を手元に持ち、要望に応じて職員と買い物に出かけている。 職員へのお礼（後で返金）を渡すことにより充足感を得られるよう配慮することもある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時にはいつでも電話や手紙で連絡をとれるよう支援している。 携帯電話の使用者には着信に気をつけ、電話で話ができるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じさせる花や絵、置物を飾ったり自然の風を取り入れ、季節を肌で感じることができるよう工夫している。 利用者から台所が見えるため生活観を感じることができる。	
			(外部評価) 玄関や廊下、階段には観葉植物が配されており、階段や踊り場の窓から自然の光が差し込み、明るい空間になっている。 居間のオルガンを利用者が弾いて、皆で歌を歌われる事もある。食卓テーブルには何代にも続いているメダカが泳ぐ小さな鉢や、シクラメンの花が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) サンルームに椅子やソファを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。 ホールでの座位置もほぼ決まっており、居心地のよい空間を作っている。	
			(外部評価) 家族の写真や趣味の道具などを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や趣味の道具などを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
			(外部評価) 居室の入り口には、利用者個々の好みの暖簾が掛けられていた。ご本人が入居前に手作りされた複数のパッチワークの作品を壁面に飾っておられる方や、ご主人の写真・誕生日に職員から贈られた職員手作りの額入りの写真等を飾っておられる方もあった。持ち込まれている好みの椅子に腰かけてテレビを見られる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 移動バーや手すり、家具等一人ひとりに応じた設置をすることで安全かつ自立した生活ができるよう工夫している。	